

地域支援センター うじだより

No4

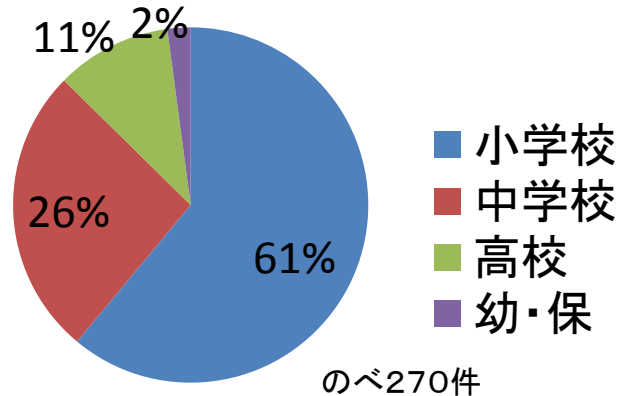
平成24年3月21日発行

今年度の巡回相談報告

今年度、「地域支援センターうじ」は、270件の相談にあたって参りました。小学校の相談数が多いですが、高等学校も宇治・城陽市にある学校は相談支援に入り始め、来年度につながる成果になりました。

大事にしてきたこととしては、宇治支援学校の教育や地域支援センターの周知・理解、継続した支援、専門機関や各市との連動などです。出向かせていただいた学校（園）では、授業参観や授業内容をお聞きするなど、御協力いただきありがとうございました。今後も御協力を頂きながら、わかりやすく頼りになる相談、支援学校と地域の学校をつなぐ相談にしていきたいと思っています。

H23年度 相談件数



のべ270件

宇治市・城陽市特別支援教育総合推進事業運営協議会(2/16・23)に実施しました。主な協議事項を報告します。

①就学前の広がり

宇治市の公立幼稚園では支援計画が作成され学校へつないでいる。私立の保育園・幼稚園への広がりが期待される。



②校種間接続

事前情報の有無でスタートが変わってくる。情報量や時期の吟味等が必要。



③2次障害を防ぐ

発達障害のある子どもは、育ちの中で傷つきやすい。生徒指導についても発達障害という視点でアプローチしていくことが大切。



④聴覚・視覚障害児童の支援

特別支援学級や通常学級に在籍している児童や担任の支えや指導のアドバイスをお願いしたい。

今年度の相談の特徴

* 専門家の活用

体の視点から支援の手立てを考えるという視点でOT（作業療法士）の先生やPT（理学療法士）の先生に入っていたりすると、専門家の活用希望が増えています。A小学校では家庭でできる、自分でできる身体のケアを教えていただきました。少し期間をおいてから再度参観すると、明らかに変化のみられるお子さんもおられました。

* 個別の支援計画作成

今年度個別のケースで4校の高等学校の教育相談にかかわらせていただきました。心理検査からわかったこと、OTの相談からわかったこと、一年かけた支援から見えてきたこと等を整理するために個別の支援計画を一緒に作成させていただいています。次年度の支援につなげていきたいと思っています。

* 継続した支援

依頼のあったケースを、期間をおきながら継続して相談してきました。特に特別支援学級は継続性が高いです。保護者の悩みや不安も受け止めながら相談をすすめていきたいと考えています。